

申3号「2019年度賃金引上げに 関する申入れ」の団体交渉を行う!!

JR東労組ステーションサービス協議会は、3月25日に申3号「2019年度賃金引上げに関する申入れ」による団体交渉を行い、各職場で奮闘している組合員の努力に報いることを強く訴えました。今後も交渉を続けていきます。

組合からの主旨説明を行う

JR 東日本ステーションサービスは、新しい人事・賃金制度を導入し、1年が経過しようとしている。魅力ある会社と安全で働きがいのある職場を目指したものであり、団塊世代の大量退職に伴い、新規人材確保は順調に経営を進めていくため必要不可欠である。新規採用者の確保を確実にし、健全な企業体質を創り上げていくことが重要で、技術継承が出来る職場風土を維持・発展させることは急務な課題だ。これまで組合員は様々な場で力を発揮することにより業務改善が進み、会社の発展のため日々奮闘してまいりました。仕事や日常生活においてモチベーション向上と生活水準の向上を実感できるように改善するために、組合員からも大きな注目を集めており、今年に対する期待は極めて大きい。私たちの強い決意と主旨を理解し、基本給一律 6,000 円の満額回答と定期昇級実施を要請する。

組 合

- 昨年は、災害等が多発したことにより異常時・輸送障害時の対応に苦慮している。
- 今後、オリ・パラでの人員不足により対応への不安がある。
- 遠隔操作システムおよび大宮の北改札コーナーの拡大。品川での遺失物などお客さま対応件数が増加し、苦勞している。
- 年末の新幹線車両故障などによるお客様対応をした組合員の努力に報いるべきだ。



会 社

- 輸送障害もあったが、大きなトラブルにならず駅業務を担って頂いた社員の皆様に感謝している。
- 人件費を削るとは言わないが、営業費用を抑えて対応する。
- お客さまの立場に立って、今後も愚直な対応をお願いしたい。
- 新幹線駅、相互での情報の連携をとっていきたい。

JR 東労組の旗の下に結集し、満額回答を勝ち取ろう!!